

2013年度関西英語教育学会（第18回）研究大会 概要

6月8日（土）	
13:00～14:25	企画ワークショップ
【第1室】 「頂上タスク」で技能統合型の教材を! -教材作りの原則と実践- 亘理 陽一（静岡大学）	
技能統合型の教材は、複数の技能を活用させようと思って作るのではなく、その目標・内容が複数の技能の運用・学習を結果として求めるものになっていることが肝要だと考えています。その際鍵となるのは、リスニングやリーディングに目的を与える、到達目標となる課題の設定です。われわれはこれを「頂上タスク」と呼んでいます。 本ワークショップでは、まず『英語教育』誌5月号の拙稿（亘理陽一（2013）.「技能統合型のオリジナル教材を作る」『英語教育』, 62（2）, 29-31.）で提示した教材づくりの原則（亘理, 2013）を詳しく紹介します。次に、具体的なテキストを用いて頂上タスクを中心とする教材作りを行います。参加者のみなさんと積極的にアイデアの交換・共有をしたいと考えています。	
【第2室】 International Prelude: Science English at Kakogawa Higashi High School 辻 祐子（兵庫県立加古川東高等学校） Jennifer Saunders（兵庫県立加古川東高等学校 ALT）	
加古川東高等学校は平成18年度よりスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受けています。SSHとは、文部科学省が、科学技術、理科・数学教育を重点的に行う学校を指定して、将来の国際的な科学技術系人材の育成のための取り組みを推進する事業です。最近では、科学技術系人材も世界を舞台に活躍することが期待されており、SSHにおいても英語の果たす役割が大きくなっています。 本校では『Challenge The World』をスローガンに、「グローバルな視点を持ち、人類の将来に貢献する科学者としての素養を身につけた人材を育成するための教科横断型の指導法およびカリキュラムの研究開発」に取り組んでいます。 今回紹介する学校設定科目「理数英語プレゼンテーション」は理科・情報・英語の教科横断型の授業です。2年生理数科を対象として、英語によるプレゼンテーション能力の向上を目指しています。ディベートから始め、科学系トピックに関する2回のプレゼンテーションを経て、最終的には、英語による課題研究発表会を行います。 ワークショップでは、授業の一部を再現します。具体的には、授業の最初に行うウォームアップや簡単なプレゼンの作成を行います。参加者のされるみなさんには、国際会議で発表する科学者を夢見る高校生になった気分授業を体験していただければと思います。	